

「ハウズランド社」の展示場
古民家スタジオ「風のくら」

家を住み継ぐこと
それは、伝統を受け継ぐということ



そこにいるだけで感じる
日本の四季

木々の芽吹きや葉の色づき、虫の声、そこかしこに咲く花。ただそこにあるだけのものが、巡る四季の訪れを教えてくれる豊かな自然。空の色や風のおいまでもが一体となり、日本の原風景とも言える姿を見せる、のどかな山間の一角に建つのが築140年の古民家を現代に蘇らせた「風のくら」だ。日本の伝統建築のよさを色濃く残しつつ、現代にもマッチするようアレンジを加えた、古民家再生モデルとして開放されている。

板の間にベタリと腰を下ろし靴を脱げば、やわらかな木の感触と素朴な風合いの土壁が優しく心地よい。突き当たりの濡れ縁に出れば、空に向かってその幹を真っ直ぐに伸ばす美しい竹林。裏には貯蔵庫として使われていたという蔵が当時のまま残る。足元では澄んだ湧き水が小川へと注ぎ込み、そこに凜とした空気が行む。



みんなが自然に集まれるようなオープンタイプのキッチン、シンプルで使いやすいも抜群。濃いブラウンの色合いもインテリアにマッチ



引き戸はアンティーク様だが建具からすべて新しいオリジナル製品。一枚一枚違う表情を見せるアンティーク調のガラスはフランス製



井草の香りがふんわりと心地よい和室に足を踏み入れれば落ちついた雰囲気を感じる



グリーン系のタイル張りレトロな印象のトイレは、欧風のインテリアと合わせ訪れる香い世代にも好評



家屋は「屋根のプロポーションを生かしたくて」当時の形そのままに。裏には貯蔵庫が当時の趣のまま残る



壁紙はヨーロッパテイストとあめあげられ

古民家再生の意義は
伝統の継承と新生

「古い家を知らない若い方でも、癒されるとか懐かしいとか。田舎に帰ってきたみたいなんて感じる方もいるようですね」とは、「風のくら」を手がけた「ハウズランド社」の三上信比古さん。同社は新築注文住宅を中心に50年の歴史を持つが、25年ほど前から古民家の再生にも力を注いでいる。

「特別なことをしているつもりはないんです。せつかく丁寧に建てられた家を壊すなんてもったいない。まだ使えるところは生かしながら、リノベーションで新たな息吹を吹き込んで現代に再生する、これこそ究極の

エコロジーだと思いませんか？」と三上さんは言う。

日本古来の伝統建築と、そこに残る住文化を現代に継承する古民家再生。「ハウズランド社」の家づくりには、失われつつある日本文化を見直したいという気持ちが込められている。

現代建築で薄れてしまった日本住宅のよさを今に取り入れれば再び輝かせたい。決して古い物や伝統に固執しているわけではない。使える部分は生かしながら、間取りや素材など現代に合うよう変えていく。

日本住宅の「和」に「洋」をうまく融合させているのも、建具などすべてオリジナルで造作された「風のくら」の特徴だ。玄関の引き戸にはめ込んだアンティーク調のガラスはフランス製、自然素材の土壁はスペイン製。よいもの、国産品にない味わいを持つものを積極的に採り入れ、上手に和と融合させることで新たなテイストを生み出している。

今後「風のくら」は展示場として来客に家づくりのアイデアを与える一方、古民家スタジオとして多様なイベントを行っていく予定だ。



お風呂に入っている間も、筑紫野の豊かな自然を楽しむことができる。清潔感あふれる浴室の左には、風呂上りにちょっと涼めるデッキスペースを設けている

ここで紹介した
展示場は...

古民家スタジオ
「風のくら」
福岡県筑紫野市大字山口2122
☎連絡先
TEL 092-555-5530
🌐HPアドレス
www.kazekura.com

次のページに続く
レトロモダンな
古民家を紹介！